

第1回 神戸便教会 報告

2014年11月16日（土）、第1回神戸便教会を、神戸の西代中学校で開催することができました。一番古い校舎を借り、9名で活動しました。

それぞれが簡単な自己紹介をしたあと、早速2班に分かれてトイレ掃除の実践を行いました。

初めてトイレ掃除に参加される先生がお二人いらっしゃったので、道具の説明を大谷先生にいただきました。ひとつひとつの道具の使い方を説明される中で、どのように使えば道具が活かされるのか、トイレに向き合うことを通して、普段子どもたちにどう向き合っているのかを考えながら取り組みましょう、と説明がありました。その後、男子トイレと女子トイレに分かれて掃除が行われました。その姿は本当に「ひたむき」という言葉がぴったりの活動になりました。担当場所は手際よく掃除され、まだ掃除できていない場所も、次々に率先して取り組まれていました。



片づけが終了したのち、教室に戻り交流会を持ちました。今日の活動の感想、それぞれの先生方が取り組んでおられる実践などの発表がありました。具体的な掃除のやり方の中で、小便器の汚れを「落とす」「削る」より「はがす」感覚がいいのではないかと。また、汚れがとれないときも、あきらめなくて続けていくと、ある時点で一気に落ちるようになる、などの報告もありました。



また、この活動は実践こそが大切であり、そしてその実践を続けることも大切なのだ
と大谷先生に教えていただきました。「センスのいい人だと一回のトイレ掃除で要領をつか
むことができる人がいる。そして、トイレ掃除の意義を語り、生徒にさせることもできる。
そして生徒から『すごい』といわれることになり、生徒から尊敬される存在になることも
ある。しかしながら、その教師は何の実践もしていない、頭だけ、理論だけで生徒を動か
し、すごいといわれることになるのは危険ではないか。実践を通してしか見えないもの、
つかめないものを逃してしまっていて、それでいいのだろうか」という話をしていただき、
深く考える機会を得ることができました。

今回、第1回を迎えるにあたり、自分の勤める
学校で始められたことに嬉しさと責任を感じてい
ます。一歩踏み出したというより、背中を押して
いただいたおかげという思いの方が強いです。た
だ、今後も活動を続けていく中で、少しでも志の
ある人が集まり、息の長い活動ができればと考
えています。トイレ掃除の実践を通して、気づく力
を高めていき、子どもたちとの関わりや自分の生き方を考えていけるような活動になれば
と思っています。



最後になりましたが、今回、様々な形で多くの方からご支援をいただきました。道具は
兵庫便教会、西宮掃除に学ぶ会からお借りしました。遠くから駆けつけてくださった大阪
便教会の方々、その他、たくさんの方から激励の言葉を頂戴しました。改めて感謝いたし
ます。

第2回は、2月の開催を予定しています。

(文責：石塚 裕司)

